

## 私から一言

# マリン児島地区社会福祉協議会について

マリン児島地区社会福祉協議会事務局長 森本 忠敬

## 自分出来るボランティアを地域の為に

マリン児島地区社会福祉協議会は、地域の福祉活動を主な目的に活動しています。愛育委員会、環境衛生協議会、自治会、民生委員会、婦人会、その他の団体と連携しながら各種活動を実施しています。

### ● 主な内容として ●

- 1 地域への情報提供
  - ・マリン便りの発行 年2回
- 2 子どもの安全パトロール 毎週2回  
パトロール連絡会議 年1回
- 3 地域との交流イベント開催
  - ・高齢者のつどい 年1回
  - ・健康ウォーク 年1回
  - ・ミニ健康展 年1回
  - ・地域サロンの開催 各11地区 随時
- 4 環境美化活動
  - ・ゴミゼロキャンペーン 6月・9月
  - ・花の苗植え付け 4月・10月
  - ・EM液配布 4月・10月
- 5 防災講演会・防災訓練 年1回

今、新型コロナウイルス感染症の感染が収まらない中で、原材料の値上がり、物価高となり、私たちの生活を苦しめています。苦しい中で一人ひとりが自分出来るボランティアを地域のために活動して頂き、地域が安心して安らぎのある社会へつながることを希望しています。



令和5年  
3月発行

## 人権だより 第43号

# ふれあい

発行 倉敷市児島中学校区  
人権学習推進委員会

事務局 倉敷市児島公民館  
倉敷市児島味野 2-2-38  
TEL.472-7423

## 人権学習推進委員研修会



1月11日(水)に、児島中学校区人権学習推進委員の研修会を、適切な感染症対策をしながら実施しました。

今回は、まず全国人権・同和教育研究大会(奈良大会)の参加報告を聞き、その後全国中学生人権作文コンテスト優秀作品『ウイルスよりも怖いもの』を視聴しました。そして、5年に一度実施されている倉敷市民の人権問題意識調査の結果報告書の概要を聞いて研修を行いました。

本当は、この報告書を使って「5年前からの意識の変化を見て、日常生活の中からこういったところで、その変化を感じるか、今後どのような取組が大切か。」をテーマに、グループ協議を行う予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の第8波の影響で、県内の感染者数が急激に増えており、推進委員の安全を考慮して、残念ながらグループ協議は中止しました。右の参加者の感想にもあるように、研修後のアンケートには、様々な人権問題を解決していくためには、それらの問題への理解を深めることが大切であり、いろいろな場での研修を広げていくことが重要だという意見がたくさん書かれていました。

### 参加者の感想

◆調査結果報告を知ることができてとても良かったです。改めて人権問題は多岐にわたっていると意識することができました。あきらめずに少しずつよい社会にしていきたいと思えます。

◆様々な人権課題がありますが、人と人とのつながりを大切にする取組の継続が必要だと思いました。

◆人権作文コンテストの作文の内容がとても良かったです。未知への恐怖は決して悪いことではありませんが、それにどう対処していくか、知るための努力をしていかなければならないと思いました。

### 人権ポスター・標語等の展示

12月4日(日)~10日(土)の人権週間中に、児島市民交流センターで児島中学校区の人権ポスターや標語等の展示が行われました。児島中学校・児島小学校・緑丘小学校の子どもたちの作品全137点、及び稗田幼稚園のふれあい交流活動の写真を中心とした展示を、多くの来館者に見ていただきました。力作ぞろいで、人権の大切さを強く訴えかけることができました。



# 倉敷市立 緑丘小学校

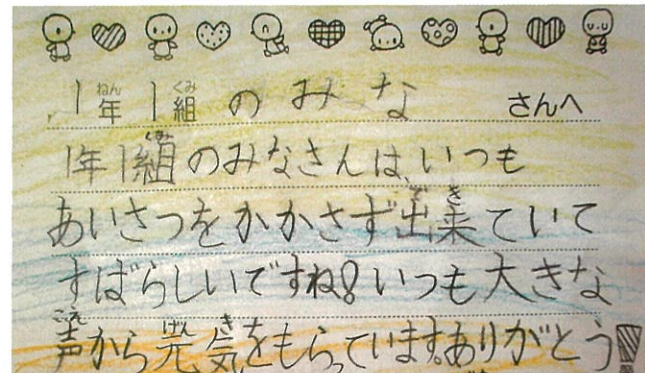


## なかよし週間の取組

○ 緑丘小学校では、年に2回1学期と2学期に「なかよし週間」を行っています。1学期のなかよし週間は「自分や友達のよさに気づき、より仲よくなることができる」をテーマに、学級目標の発表や、人権ポスターや標語の掲示などに取り組みました。



○ 2学期のなかよし週間は、テーマを代表委員会で話し合い、「ふわふわことばで笑顔いっぱい！感謝の気持ちを伝えよう！」を目指し、ハッピーレター（健康委員会）、「ふわふわ言葉」の書かれたポスターの掲示（給食委員会）や人権的な内容の図書の読み聞かせ（図書委員会）に取り組みました。



ハッピーレターは、友達のよいところを見つけて、友達がハッピーになる手紙を書きます。今回のなかよし週間が学習発表会の週と重なっていたこともあり、児童は他の学年のよいところにも目を向けて、様々な学年に向けて手紙を書くことができました。「いつも朝早くからあいさつ運動をしてくれてありがとうございます。大きな声にいつも元気をもらっています。」

「いつも会ったら先にあいさつをしてくれてありがとうございます。学校中を明るくしてくれていて、すごいなと思いました。」のように、あいさつ運動を進んで行っている高学年の児童に向けての手紙も見られました。給食時には、健康委員会の児童が、投かんされた手紙の中から「すてきだと思う手紙」を放送で紹介することで、児童のよいところを全校で紹介することができ、学校中がとても温かい空気に包まれました。

更に今回は、「あいさつ」「そうじ」を継続的によく頑張っている児童に向けて、グッドビハイピアチケット（よい行動を見つけて感謝の言葉を伝えるチケット）を校長先生、教頭先生から発行していただきました。表彰された児童は、「まさか自分がもらえるとは思っていませんでした。」と言いながら、とてもうれしそうに受け取っていました。グッドビハイピアチケットの影響を受けて、今では朝から校内に元気なあいさつが響くようになりました。

なかよし週間は終わりましたが、これからも継続して、児童が互いのよさを認め合い、よい行動を進んで行うことができることを願っています。



# 倉敷市立 児島中学校



## PTA人権教育講演会

- ◆ 日時 11月9日（水）
- ◆ 演題 「障がいを負ったからこそ ～そして新たなる挑戦へ～」
- ◆ 講師 渋川ユニバーサルビーチプロジェクト 代表 藤原 智貴 先生



児島中学校の卒業生である藤原先生は、2009年6月、サーフィンの練習中の事故によって胸から下が不自由となり、34歳から車椅子での生活になりました。事故後に、障がいの程度に合わせて行うアダプティブサーフィンと出会い、2017年には世界大会に出場しました。また、2017年の2月から、岡山県で初めて介助犬が藤原先生に貸与され、介助犬ダイキチとの生活が始まりました。

介助犬は、盲導犬、聴導犬と並ぶ補助犬で、日常生活を介助します。落ちたものを拾う、ドアの開閉、携帯電話など指示されたものを持って来るなどさまざまな生活の手助けをしてくれます。実際に、携帯電話を探して持ってくるという実演を見せてい

ただき、とても感心しました。

藤原先生は、ダイキチが来てから生活が一変し、出かけるときの不安も少なくなったそうですが、まだまだ出先で困る場面に遭遇することもあるそうです。例えば、やっとの思いで多目的トイレを見つけても、トイレ内のおむつ替えベッドが下りていて車椅子が通れず使用できなかったり、エレベーターの扉が開いても多くの人で乗るスペースが無い場合は長時間待ったり、車椅子マークのある駐車スペースを使おうとすると、奇異の目で見られたり、中には「そこへ駐車するな」と声を荒げられたりすることもあるそうです。障がいのある人もない人も共に支え合い、さまざまな人々がすべて分け隔てなく暮らしていくことのできる「共生社会」について考える時間となりました。

## ～生徒の感想文より～

- ・ 「介助犬」という存在を初めて知った。使用者に合わせてさまざまな動作ができるということが分かった。街中で見かけた時は仕事なので、介助犬と目を合わせたり、なでたりしないようにしたい。
- ・ 障がいの有無にかかわらず、みんなが平等に生きやすくなるために、「何か手伝えることはないですか？」と言える人になりたい。
- ・ 自分ができないと考えていることや挑戦しないことがもったいないと思った。これからは自分で限界を決めずに一生懸命取り組んでいきたい。
- ・ 物事は捉え方次第で幸せにも不幸にもなるということが分かった。「ありがとう」という言葉を意識して、今ある幸せを大切にしたい。

